

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	マーケティングに基づいた、シティプロモーションやブランディングの推進	枚方市
アイデア名 (注1) (公開)	シビプラ醸成加速プログラム		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	アタラシイメガネ		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム	<input type="radio"/> 2. 学生によるチーム	<input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	5名		
代表者情報	氏名 (公開)	亀田 麻由	
メンバー情報	氏名 (公開)	篠崎 聡、下川 哲平、伴 裕果 檜木 智恵	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

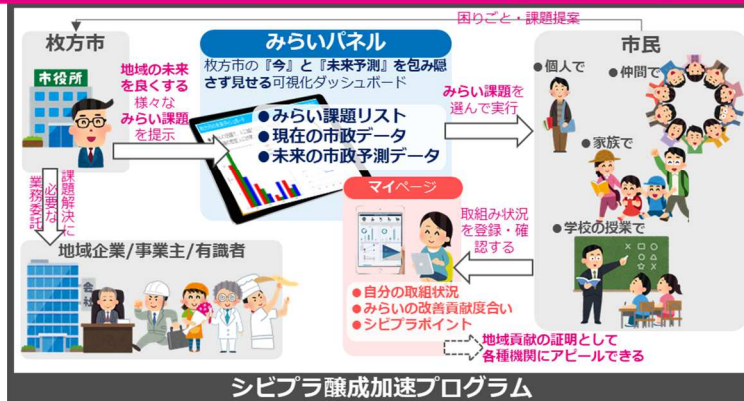
2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて内容そのものをわかりやすく示してください。1 ページ以内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

「シビプラ醸成加速プログラム」でシビックプライドの醸成を加速し 行政と市民の相互努力による共助社会を創ります



イラスト：いらすとや

サービスの概要

「シビプラ醸成加速プログラム」は、市民のシビックプライドの醸成を加速し、行政と市民の相互努力による共助社会創り出すことを目的とした地域創生プログラムであり、地域貢献活動サポート WEB サービス『みらいパネル』を通して市民に展開される。

みらいパネルの機能

- 機能①：枚方市の今と未来を良くするために設定された『みらい課題』掲示板があり、市民が課題解決に参加できる
※みらい課題＝地域の未来をよくするための大小さまざまな地域の社会課題。有識者や市民の提案・国政・社会情勢など様々なソースをもとに枚方市が解決しやすいように整理、分解して掲示する
- 機能②：今と未来の市政データを確認できるダッシュボードがあり、市民は包み隠さない将来の枚方市を確認できる
※現状と未来予測を「見える化」することで、市民は意識が高まるきっかけを得られる
- 機能③：自分が取り組んだみらい課題の進捗状況や貢献度合いがわかる『マイページ』がある
※自分の行動の成果が「見える化」されることで、市民の参加意欲が高まる
- 機能④：市民同士が交流や情報交換するための SNS がある
※交流により、参加継続意欲や課題解決に対する想いや知見が広がる

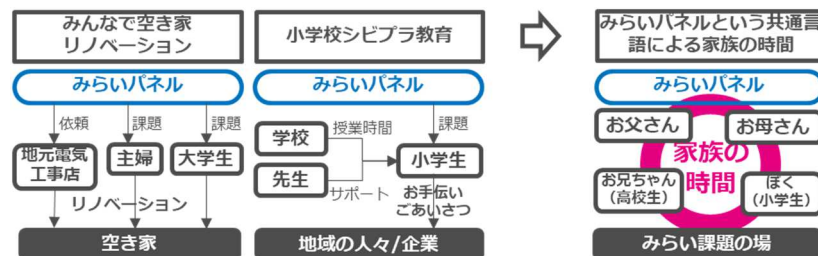
みらい課題の例

- 例①：元気にあいさつしよう／街を掃除しよう／読書しようなど、小学生でも達成できて人格や情緒を養うもの
- 例②：田植え／空き家リノベーションなど、大人数で大規模に取り組んで地域の問題を改善するもの
- 例③：枚方市で起業する／市民を雇用する／文化産業の跡継ぎになる／枚方家具団地再生など、地域産業に貢献するもの

市民が得られるもの

市民は、人生経験・スキル・人脈・将来の選択肢・社会的評価を得ることができる。また、実績はマイページより対外的に証明することができるので、就職活動や企業の CSR に活かすことができる。さらに今後は、受験内申点や各種行政優遇などの制度に繋げることができる可能性がある。

【利用シーンの例】



例①：空き家リノベーション・・・市民と業務委託された業者が空き家のリノベーションに取り組む。市民はスキル・経験・社会的評価を得る。枚方市はスラム化の防止、治安維持ができ、街の魅力アップを得ることができる

例②：小学校シビプラ教育・・・小学校が授業時間を提供し、先生は生徒をサポートする。生徒は自分で課題を選択して取り組む。地域の人々や企業のお手伝いをする中で、人生経験・将来の選択肢・シビプラの心が醸成される。枚方市は生徒から、未来の可能性や文化の担い手を得る

例③：家族の時間・・・家族全員がみらいパネルという共通言語を使って豊かなコミュニケーションができる

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、2 ページ以内でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

【枚方市の課題】 10/15、ひらかた魅力推進課の由比係長さまより、直接お話を伺ったの理解。

要求：「効果が測れる、イノベティブなシティプロモーションの施策、取り組み」

ありたい枚方市像：「①シビックプライドにより、魅力ある枚方市に」「②市民が住み続けたい、住みたいまち枚方市に（定住促進、人口誘導につなぐ）」「③将来的な人口減の中でも、持続可能な枚方市に」

我々は、上記を踏まえて、上位目的を議論し設定。検討を重ねて本アイデアを導き出した。

【本アイデアの目的】

今の地域コミュニティの問題点として「行政サービスへの過剰な期待」が挙げられる(※1)。近い将来、人口減少と経済後退による税収減、そして行政の弱体化が予見される中、市民が主体性を失ったままでは地域に明るい未来は訪れない。本アイデアで「地域に対する主体性を獲得した市民による共助を創り出し、理想的な地域社会」を目指す。

(※1：共助社会と場所性 P6 https://www.npo-homepage.go.jp/uploads/chihou_kyoujo_2_sekiya.pdf)



【共助を広げる手段】

シビックプライド（以下シビプラ）とは、「この都市をより良い場所にするために自分自身が関わっている」というある種の当事者意識を伴う自負心を指す(※2)。想いだけに留まらず、その都市の課題解決や、活性化といった、具体的な活動に取り組む姿勢を含んでいるのが特徴。枚方市伏見市長も所信表明演説で、シビプラの醸成に触れている(※3)。

このシビプラを持つ市民を増やす事が、共助が広がっていく原動力になる。我々は、このシビプラに着目。「シビプラを醸成しつつ、地域課題が市民の力で解決していく（共助が生まれる）仕組み」を設計した。

(※2：2015/9/1 株式会社宣伝会議発行「シビックプライド2【国内編】都市と市民のかかわりをデザインする」 P126)

(※3：2017/2/24 枚方市長姿勢運営方針 <http://www.city.hirakata.osaka.jp/0000010785.html>)

【シビプラ醸成のために】

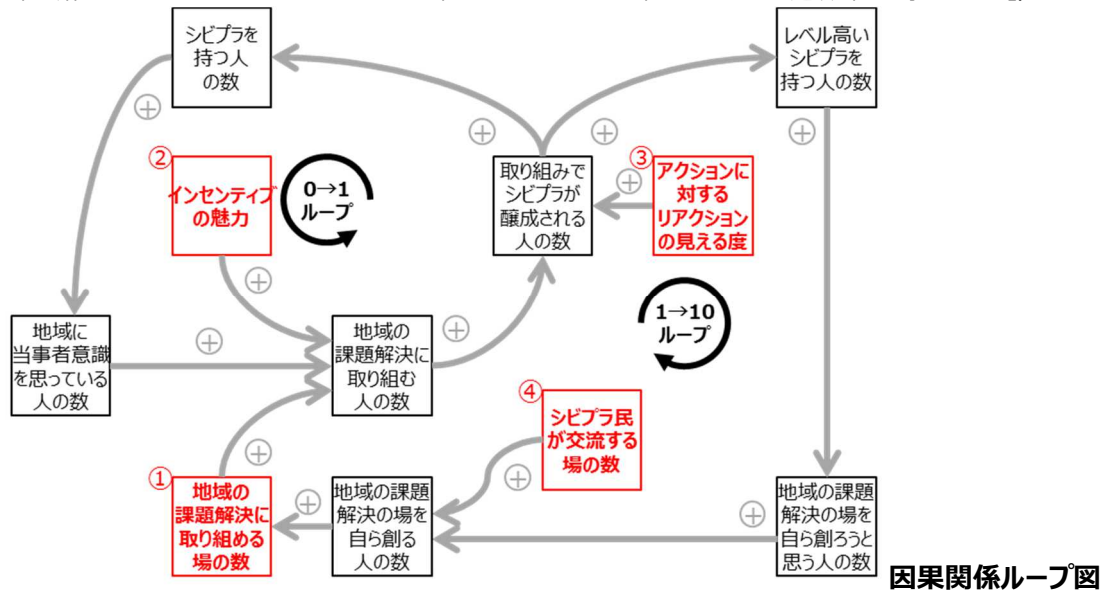
次頁に、市民が地域の課題解決に取り組み、高じて課題解決の場までも創る事を示す因果関係ループを示す。

◆0→1 ループ：「①地域の課題解決に取り組める場の数」を増やし、「②インセンティブの魅力」を加える事で、シビプラを持たない市民にも、地域の課題解決に取り組ませる事が出来ると考えている。「③アクションに対するリアクションを見せる」事で、シビプラを持たない市民に、シビプラを持たせる事ができると考えている(※4)。

◆1→10 ループ：「0→1 ループ」を何度も体験すると、シビプラ醸成が進み、シビプラレベルが高い人が増え、課題解決の場を自ら創ろうと思う人が増える。「④シビプラ民が交流する場」がある事で、実際に課題解決の場が創られ、結果「①地域の課題解決に取り組める場」が増える(※5)。コントロール可能な①～④を提供する事で、シビプラ醸成が加速していく。

(※4：シビックプライド2 P127『自分のアクションに対して、都市自体やそこにいる人々のリアクションが感じられた時、シビックプライドが芽吹く』)

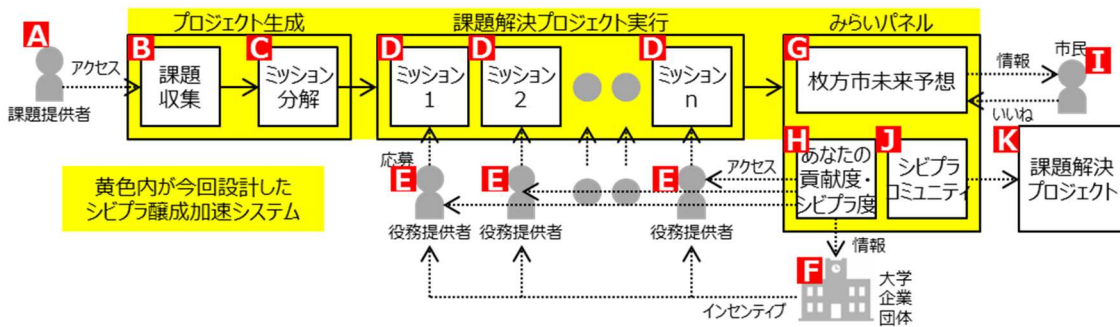
(※5：シビックプライド2 P136『シビプラが高まると気持ちを伝えたいくなるし、行動を起こしたくなる。誰かが「それ、いいね！」と反応してくれて、その人自身がシビプラを育て始めたり、アクションを起こしてくれる。シビプラを育てるとは、一人ひとり育てるだけでなく、連鎖を育てる事でもある。』)



因果関係ループ図

【シビプラを増やす手段が、何故このアイデアなのか】

「シビプラ醸成加速プログラム」の概念図を以下に示す。上記の①～④を提供している事を説明する。



【①地域の課題解決に取り組める場】

「A 課題提供者」より「B 課題収集」し「C ミッション分解」する事で、数多くの場＝「D ミッション」を提供する。
 「D ミッション」を「E 役務提供者」が閲覧・応募する事で、課題解決プロジェクトが始まる。
 「D ミッション」は参加ハードルの低いものも提供し、小学生からシニアまで、様々な人が参加できる様にする。
 「D ミッション」には、「内装工事可の空き家提供（家賃 5 万円）」の様な、モノ・カネの提供も含む。

【②インセンティブの魅力】

「F 大学・企業・団体」と提携し、「E 役務提供者」に対してインセンティブの提供をする。
 社会人←スキル認定。大学生←単位。中学生←内申点。小学生←バッジ。独身者←出会い。市民←商店街から各種優待など、本目的に共感する団体と共に、各セグメントに様々なインセンティブを設計できると考えている。

【③アクションに対するリアクションを見せる】

「E 役務提供者」は「G 枚方市未来予想」で、自分のアクションが、枚方市の未来にどう影響したかがわかる。
 「H あなたの貢献度・シビプラ度」で、自分視点の変化も把握できる。
 「I 市民」は、「D 枚方市未来予想」で、某プロジェクトの完遂が未来に与えた影響を見て、その感謝を表せる。

【④シビプラ民が交流する場】

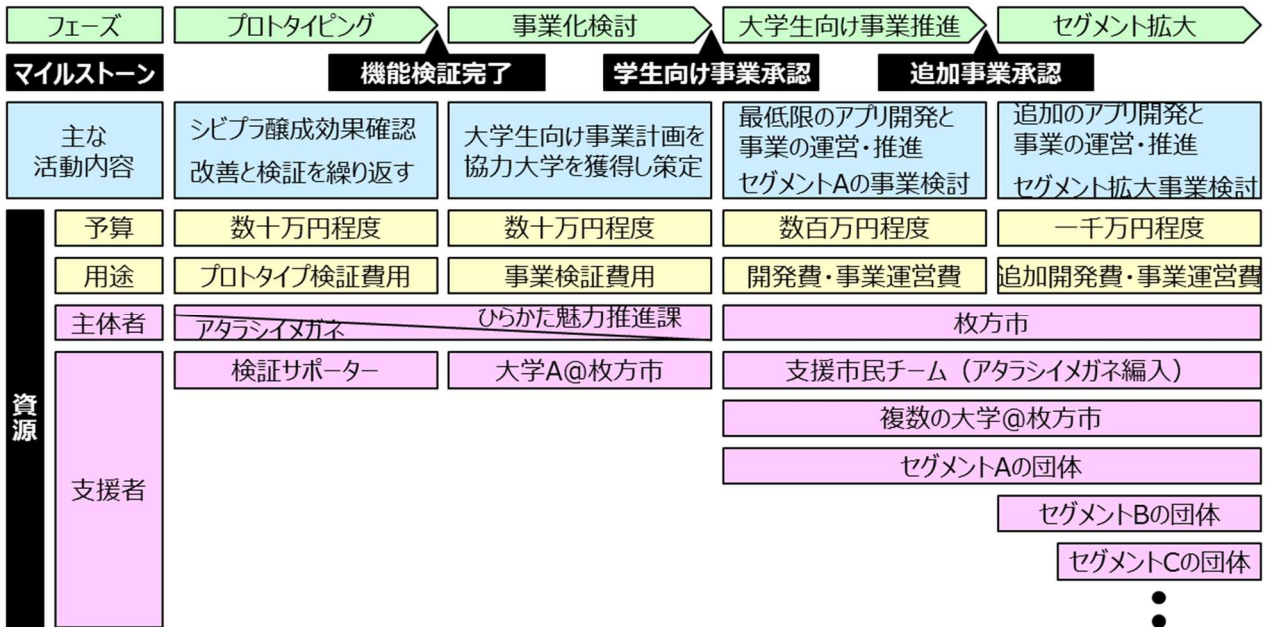
「J シビプラコミュニティ」は、全てのステークホルダの交流の場。この様な場がある事で、「シビプラ醸成加速プログラム」の外で、「K 課題解決プロジェクト」が自然発生する。
 「K 課題解決プロジェクト」が提供する「①地域の課題解決に取り組める場」が大部分となり、「シビプラ醸成加速プログラム」が不要となる将来を創りたいと思っている。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大きな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

【アイデア実現プロセスの概要】

〔アイデア実現プロセスの概要図〕



〔特徴〕

- プロトタイプ検証・事業化検討・大学生向け事業推進・セグメント拡大の4フェーズを経て、アイデアを実現。
- スモールスタートで効果や実現性を確認・改善しながら進め、セグメントを徐々に拡大するプロセス設計。

〔各フェーズのゴール（プログラム実行の最初の対象セグメントは大学生を想定）〕

プロトタイプ検証：アイデア実現により、シビラ醸成が加速されること確認完了。

事業化検討：適切なセグメント(現状は大学生を想定)向けの事業計画策定。⇒実施承認獲得。

大学生向け事業推進：事業を軌道に乗せる。⇒次のセグメント A 向け事業計画策定。⇒承認獲得。

セグメント拡大：セグメント A 向け事業を軌道に乗せる。⇒セグメント B 向けの事業計画策定。⇒承認獲得。
⇒以降セグメント拡大を重ね、最終的には全市民が対象に。

【アイデア実現の主体者】

本アイデア実現のためには、目的からブレないように品質やリスクを監視しながら、シビラ醸成加速プログラムに適切な資源投入をしていく必要があるため、枚方市が初期段階から主体者として参画。アタラシメガネは、起案者として初期段階は主体的に参画。事業化決定後は、他の市民も巻き込んだ「支援市民チーム」の中に、アタラシメガネメンバーが入る形を想定。

【各フェーズに必要な資源（ヒト・モノ・カネ）と、その調達方法】

① **プロトタイプ検証フェーズ**：プロトタイプを既存の SNS 等を使いながら検証

資源（ヒト）：「ひらかた魅力推進課」と「アタラシメガネ」。プロトタイプ検証のために有志サポーターを募集予定。

資源（モノ）：「シビブラ度測定方法」シビブラ第一人者、東京理科大学の伊藤香織氏に、協力依頼予定。
「未来予想算出方法」指標抽出・課題カテゴリ分け・影響度レベルを設定し、市と整合予定。
資源（カネ）：数十万程度の予算での推進を想定。「ひらかた魅力推進課」の予算で調達予定。

② 事業化検討フェーズ（最初のターゲットを大学生とする）

資源（ヒト）：「魅力推進課」と「アタラシイメガネ」、「枚方市にある大学」⇒5 大学（関西外国語大学、摂南大学、関西医科大学、大阪歯科大学、大阪工業大学）から有志参加を募集予定。

資源（モノ）：「大学生向けインセンティブの設計」大学・大学生・枚方市とワークし設計を予定。
アプリ開発項目と、開発予算、開発手法の明確化。
アプリ開発においては、枚方市より Code for Japan(※6)に対して、協働を打診中。
(※6：Code for Japan <http://www.code4japan.org/>)

資源（カネ）：数十万円程度の予算での推進を想定。「ひらかた魅力推進課」の予算で調達予定。

③ 大学生向け事業推進フェーズ（アプリ開発→実証→アプリ修正を繰り返した後、本事業開始）

資源（ヒト）：「枚方市」、「支援市民チーム」、「枚方市にある大学」、次のセグメント拡大対象の「関連団体」
※「関連団体」の候補は大学の先行事例結果を踏まえて選択し、連携予定。

資源（モノ）：大学独自の掲示板機能など既存資源。確定したインセンティブ。
「セグメント A 向けインセンティブの設計」、対象団体と枚方市で設計予定。

資源（カネ）：アプリ開発費（「あなたの貢献度・シビブラ度」・「枚方市未来予想」の一部開発を想定）
※その他は、大学既存の掲示板機能等の活用で数百万円程度に抑える
「枚方市」の予算で調達予定。
※参考：枚方市総予算 1,336 億円。内、社会教育費 17 億円。

④ セグメント拡大フェーズ

資源（ヒト）：「枚方市」、「支援市民チーム」、「関連団体」×複数

資源（モノ）：次セグメント向けインセンティブの設計。

資源（カネ）：アプリ開発（みらいパネルアプリ）。枚方市から調達予定。

※各資源について、先行事例でシビブラ醸成加速の成果を得る事で、関連団体などから獲得可能と想定。

【普及に向けた目標値について】

本アイデアをムーブメントにするために、セグメント毎のみらいパネルアプリのアクティブユーザー率 16%越えを普及目標値とする。（出所：イノベーター理論、キャズム理論）

- ①大学生向け事業：大学生の普及率 16%越え（約 20,000 人中 3,200 人以上）を目標に、広報・インセンティブ・SNS 拡散などの普及策を講じる。
- ②セグメントごとに有効な課題設定とインセンティブ設計を行い、普及が容易な順に実行、それぞれの 16%以上を獲得することで各層拡大フェーズへと移行、最終的には枚方市民普及率 16%越えを実現する。

【本アイデア創出における、枚方市との連携】

以下の通り、既に枚方市と連携を取りながら推進している。

ディスカッション：ひらかた魅力推進課とのミーティング、ワークショップを実施している。

市幹部プレゼン：市長、副市長およびマネジメント層にプレゼンを行い、追加要望含め意見交換を行った。

書類選考通過後：ひらかた魅力推進課と、実行に向けての具体的な検討を行う予定。

- ・「シビブラ度」計量方法の開発相談（枚方市長より、東京理科大学伊藤先生へのオファー）
- ・プロトタイプ検証の設計（シビブラ度向上策になっているかを計測できるプロトタイプの設計）
- ・プロトタイプ検証の場の検討（既に推進中の町家プロジェクトを検証の場に行えないか？）など